

2023年度広島市立大学外国人留学生選抜
(国際学部)

小 論 文 (120分)

2023年2月25日

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この問題冊子は7ページあります。
試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合には、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 3 解答用紙は4枚です。解答はすべて解答用紙の所定の場所に記入しなさい。
- 4 受験番号は、すべての解答用紙紙の所定の欄に、必ず記入しなさい。
- 5 解答用紙とは別に、下書用紙が2枚あります。必要に応じて自由に使用しなさい。
- 6 配付した解答用紙は、試験終了後にすべて回収します。
- 7 試験終了後、問題冊子及び下書き用紙は持ち帰りなさい。

このページは白紙である。

第1問

つぎの文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

隣人同士だった民族が、なぜある時を境に対立し、殺し合うようになるのか。

旧ユーゴスラビアのコソボ北部に位置するミトロビツァを訪れた。一見山あいの静かな田舎町は、1998~99年の「コソボ紛争」で「民族浄化」と呼ばれる虐殺や追放が繰り返された地である。

街の中央をイバル川が流れる。コソボ国内で少数派のセルビア人は主に川の北側に、多数派のアルバニア人は南側に暮らす。兩岸を結ぶ橋は、国連安保理決議^(注1)に基づく治安維持部隊が管理する。徒歩では渡れるが、車は通れない。

普段水面下に潜む両者の確執^(注2)は、(a) ふとしたきっかけで浮上する。セルビア人にはこれまで、セルビア本国と同じ車のナンバープレートや身分証明書を使える特例が認められていた。アルバニア人主体のコソボ政府がこれを廃止する方針を示し、反発したセルビア人側が7月末に街を封鎖した。緊張が一気に高まった。

この街で南北間の交流事業を展開してきた市民団体主宰者ミリカ・アンドリッチラキッチさん(31)は「騒乱が長引いて死者も出た2011年に状況が似ている。治安維持部隊もいるので紛争までには発展しないだろうが、地域社会に与える影響は深刻だ」と懸念を隠さない。

犠牲者1万人といわれる紛争から二十余年を経て、火種は絶えることがない。

ただ、セルビア人とアルバニア人は旧ユーゴ時代、特段の対立もなく共存した関係にある。1989年に冷戦が終わり、核戦争の恐怖が遠のいて世界が安堵する^(注3)中で、(b) どうして彼らは虐殺に走ったのか。

その疑問は、かつて見た情景に結びつく。

2020年11月、筆者は紛争さなかの旧ソ連南部ナゴルノ・カラバフにいた。アルメニアとアゼルバイジャンがともに領有を主張するこの地域で、実効支配する前者に対し、後者は激しい攻撃を加えた。中心都市ステパナケルトでは病院や学校、民家が被弾し、多数の死傷者が出た。

飛来するロケット弾の下を市民と逃げ惑いながら、抱いたのは今と同じ疑問である。ソ連時代、大した問題もなく暮らしていたアルメニア人とアゼルバイジャン人は、ソ連崩壊直前から急速に対立を深めた。何が安定を崩したのか。

この地域を長年取材する英国人ジャーナリストのトマス・デワール氏は、著書「黒い庭」(未邦訳)で原因を検証している。両者の対立は、歴史に根ざすものでもなければ、経済格差から説明できるものでもない。ソ連を支えてきた社会主義の理念への信頼は、80年代のゴルバチョフ氏の改革に押され、失われた。人々の精神に空洞が生じた。これを埋めたのが、先鋭化した民族ナショナリズムだった、というのである。敵と味方を明確に区別するソ連独特の(c) 言い回しばかりが引き継がれ、相手を互いに脅威と位置づける意識が浸透した。

独自の社会主義を掲げた旧ユーゴにも、この仮説が当てはまらないか。

言うまでもないが、ロシアによるウクライナ侵攻は、民族紛争とは言えない。単なる侵略戦争

であり、政治指導者が侵略をやめれば、戦争も止まる。住民の憎しみやわだかまりが絡み合う中で、調停や和解の仕事を繰り返さざるを得ないコソボやナゴルノ・カラバフに比べると、解決への道筋は至極明快だ。

にもかかわらず、戦争を推進するプーチン政権への高い支持率を見る限り、ロシア人の意識にも同様に、(d)精神の空洞が生じているように思えて仕方ない。社会主義という精神的支柱を失い、それに代わるイデオロギーを、「偉大なロシア」を奉じるナショナリズムに見いだした、と察せられるからである。ウクライナ侵攻は、多くのロシア人にとって民族主義の発露^(注4)の一形態ではないか。

この間、欧米や日本は何をしていたのだろう。ベルリンの壁が崩壊するのを目の当たりにして、筆者を含む多くの方は、自由と民主主義が勝利を収めたと悦に入った^(注5)。その陰で、民族主義はひそかに、いくつかの国で浸透した。

(e) 私たちは、油断をしていたのかも知れない。

出典：「民族紛争の陰にある精神の空洞」『朝日新聞』2022年8月28日（朝刊）より抜粋。

(承諾番号 23-0717) 必要に応じて表現等を変えてある。

(注1) 国連安保理：国際連合安全保障理事会のこと。

(注2) 確執：不和。

(注3) 安堵する：ほっとする。安心する。

(注4) 発露：隠れていたことが現れ出ること。

(注5) 悦に入る：事がうまく運び、満足して喜ぶ。

問1

(1) 下線部 (a) の「ふとした」の用法に注意し、この語が含まれる短文を作りなさい。(5点)

(2) 下線部 (c) の「言い回し」の用法に注意し、この語が含まれる短文を作りなさい。(5点)

問2 下線部 (b) 「どうして彼らは虐殺に走ったのか」と同じ趣旨の疑問を繰り返している箇所はどこですか。本文から10字以内で抜き出ささい。(10点)

問3 下線部 (d) 「精神の空洞」を埋めたのではないかと推測されるものは何ですか。本文から20字以内で抜き出ささい。(10点)

問4 下線部 (e) 「私たちは、油断をしていたのかも知れない」とは具体的にどのような意味か。本文にそくして200字以内で記述しなさい。(20点)

第2問

つぎの文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

メディア等でも広く報道されている通り、経済活動の停滞による雇用への打撃は深刻であるが、移民／外国人が直面している困難は、日本人以上である。その背景には、コロナ以前の平時における移民／外国人の就労状況がある。

専門的・技術的労働者を積極的に受け入れるという政府方針とは異なり、外国人労働者の多数を占めるのは、いわゆる「単純労働者」であり、権利が侵害されやすく周縁的で不安定な就労を甘受せざるをえない者が少なくない。

その証左のひとつは、労働力需要に応じて供給調整される派遣・請負といった間接雇用の割合が、ニューカマー外国人では20.4%（厚生労働省「外国人雇用状況」の届出状況まとめ〔令和元年10月末現在〕）、以下「外国人雇用状況」と、日本全体の2.5%と比べてきわめて高いことである。

さらに、従業員規模別で見ると、日本人に比べて、移民／外国人は小規模な事業所で働く割合が高くなっており、総じて、重層的な下請け構造の下位に位置づけられ、主体的な事業戦略や雇用計画を立てることが難しく、経営基盤が脆弱な事業所で移民／外国人が雇用される傾向にある。つまり、彼／彼女らの雇用主自身が産業構造の「弱者」であり、危機に際して自らを守るだけで手一杯な事業所が少なくない。その結果、雇用主の「自衛」のために、容易に移民／外国人が切り捨てられるのである。もちろん、だからといって、不当解雇などが正当化されるわけではない。

加えて、前掲の外国人雇用状況の21.1%を占める技能実習生の場合、技能実習制度という「移住インフラに組み込まれた社会的剥奪」ゆえに、コロナ以前から、過酷な状況に陥っている者も多い。2018年の入管法改定は、当該制度が是正—より端的に言えば「廃止」—されるべき絶好の機会であったにもかかわらず、タテマエ議論によって、当該制度は延命された。そして、そのごまかしゆえに、技能実習生は、コロナ禍という非常事態において、さらなる苦境に追い込まれているのである。

技能実習生に限らず、移民／外国人の中には、雇用先の存在を前提として在留資格が付与され、職種変更や転職の自由が認められていないために、労働市場において「弱い」立場に置かれている労働者がいる。これに対して、就労に制限のない在留資格をもつ日系南米人（南米系移民、外国人雇用状況の9.8%）に関しては、制度上、職種や地域に関係なく仕事を「選ぶ自由」を有している。しかしながら、ブラジル人とペルー人の間接雇用比率はそれぞれ54.6%と43.9%と、ニューカマー外国人の中でも突出して高い。リーマンショック^(注1)後、日系南米人数は減少した一方で、「永住者」という安定的な在留資格をもつ者に限ってみれば、数においても割合においても増えているにもかかわらず、フレキシブルな労働力から脱却することができず、リーマンショックに続く「二回目の危機」に見舞われることになった。

移民／外国人に対する就職差別、雇用差別の存在も、彼／彼女らを「弱い」立場に追いやって

いる。2016年に実施された法務省委託の外国人住民調査によれば、過去5年間で「外国人であることを理由に就職を断られた」者が25.0%にもものぼっている。日立就職差別事件^(注2)から40年以上が経っているにもかかわらず、変わらぬ就職差別が存在しているのだ。「同じ仕事をしているのに、賃金が日本人より低かった」「外国人であることを理由に、昇進できないという不利益を受けた」「勤務時間や休暇日数などの労働条件が日本人よりも悪かった」「外国人であることを理由に解雇された」といった雇用差別も存在している。

このような差別は日本語が十分にできないゆえではないかと推測されるかもしれないが、日本語能力別に分析すると、日本語が日本人と同程度にできても、仕事等に差し支えない程度にできても就職差別・雇用差別を受けていることも、当該調査から明らかになった。すなわち、本人の努力では変更することのできない^(a)「外国人」という属性によって差別を受けているのである。脆弱な雇用環境に加えて、このような差別が存在すれば、当然ながら、非常時に真っ先に移民／外国人が解雇の対象になることは、容易に想像できるであろう。

Last hired, first fired（最後に雇用され、最初に解雇される）— 世界恐慌^(注3)の際のアフリカ系アメリカ人について語ったこの言葉が、広く移民／外国人にもあてはまる。

実際、2020年2月半ばあたりから、ベッドメイキングやリネンサプライ、通訳ガイドなど観光関連産業で働く外国人から、シフトを減らされた、無期限の自宅待機を命じられた、突然解雇された、といった相談が筆者のもとに届くようになり、3月、4月になると、自粛要請^(注4)による飲食店・小売店の休業や営業時間の短縮、需要低迷による製造業の減産体制など、あらゆる産業で働く移民／外国人から相談が寄せられるようになった。筆者の調査の限りでは、この状況はいまだ改善が見られないし、むしろ悪化している。

そして、技能実習生や間接雇用で働く者など、雇用先から提供された住居で生活する者の場合、雇用の喪失が住居の喪失へと直結する。住む場所を失い、友人や知人の家を転々とする者、路上生活せざるをえない者、宗教団体などのシェルターに身を寄せる者。コロナの影響で、心身の安住の基盤となる「ホーム」という意味での「ホームレス」に陥っている者の中には、大人に扶養されている子どもも含まれていることも、ここで指摘しておきたい。

出典：鈴木江理子「社会の脆弱性を乗り越えるために」鈴木江理子編『アンダーコロナの移民たち』（明石書店、2021年）より抜粋。必要に応じて表現等を変えてある。

(注1) リーマンショック：2008年9月にアメリカの有力投資銀行であるリーマン・ブラザーズが経営破綻し、それをきっかけに世界的な株価下落・金融危機が発生し、世界規模の不景気が続いた出来事。

(注2) 日立就職差別事件：1970年に発生した、日立ソフトウェアに応募した在日韓国人二世の男性が民族的偏見から採用内定を取り消されたことをめぐる事件。

(注3) 世界恐慌：1929年にニューヨーク株式市場の大暴落に端を発した世界的な経済の混乱。

(注4) 自粛：ある態度や行動を自らすすんで控えること。

問1 下線部 (a) の「外国人」という属性によって差別を受けている」とはどのようなことですか。本文の内容をふまえて、自分の言葉で85字以内で説明しなさい。(15点)

問2 日本社会における移民や外国人の状況を左右する要因は何であり、その境遇がよくなるには、何が変わらなければいけないと思いますか。本文の内容をふまえて、300字以内で具体的に書きなさい。(35点)